

## 第5回 川上ダムモニタリング部会 議事要旨

1 日 時 : 令和6年2月20日(火) 14:00~16:00

2 場 所 : 京都 JA ビル 会議室 201

### 3 委 員

部会長 池淵周一 京都大学名誉教授  
委員 江崎保男 兵庫県立大学名誉教授  
海老瀬潜一 元摂南大学教授  
角哲也 京都大学防災研究所水資源環境研究センター教授  
藤井伸二 人間環境大学人間環境学部人間環境学科准教授  
松井正文 京都大学名誉教授  
森下郁子 一般社団法人淡水生物研究所所長

(五十音順)

### 4. 議事要旨

#### (1) 規約の変更について

- ・規約については、事務局案のとおりとし、規約は令和6年2月20日から施行することとする。

#### (2) 令和5年度 川上ダムモニタリング調査結果について

##### 【試験湛水】

- ・試験湛水が長期化しつつあるため、早期完了のための検討を行うこと。

##### 【水質】

- ・水質保全設備の運用により水質保全の効果が得られているが、今後は、電力の消費量や水質調査結果を踏まえて、水質保全設備の効率的な運用方法を検討すること。

##### 【植物の重要種の保全】

- ・植物の移植結果の評価として、成功と判断するための一般的な基準・定義はないことから、移植の成否の表現については検討すること。

##### 【河川環境】

- ・底生生物に関する記載内容について、造網型が増加した要因を見直すこと。また粗粒化は掘潜型の減少要因とはならないので見直すこと。

#### (3) 川上ダムモニタリング調査計画について

##### 【水質】

- ・前深瀬川筋は縦断方向に長いことから、水質保全設備の効果は、副基準地点よりも上流の水質保全設備が影響しない貯水池上流の水質状況も把握し、その結果も踏まえて評価を行うことを検討すること。
- ・ダム上流域の人口が変化しているので汚濁負荷量の変化を再確認すること。

#### (4) その他

- ・既設ダムのモニタリング調査によりダム建設後における環境変化が把握できていることから、この知見も活用して、川上ダムの現在の環境変化の状況等の評価するようにして、モニタリング調査結果をもちいて、よくない方向に向かっていないかなどを確認できるような整理を検討すること。

以 上